

隅田公園における今後の再整備について

1 目的

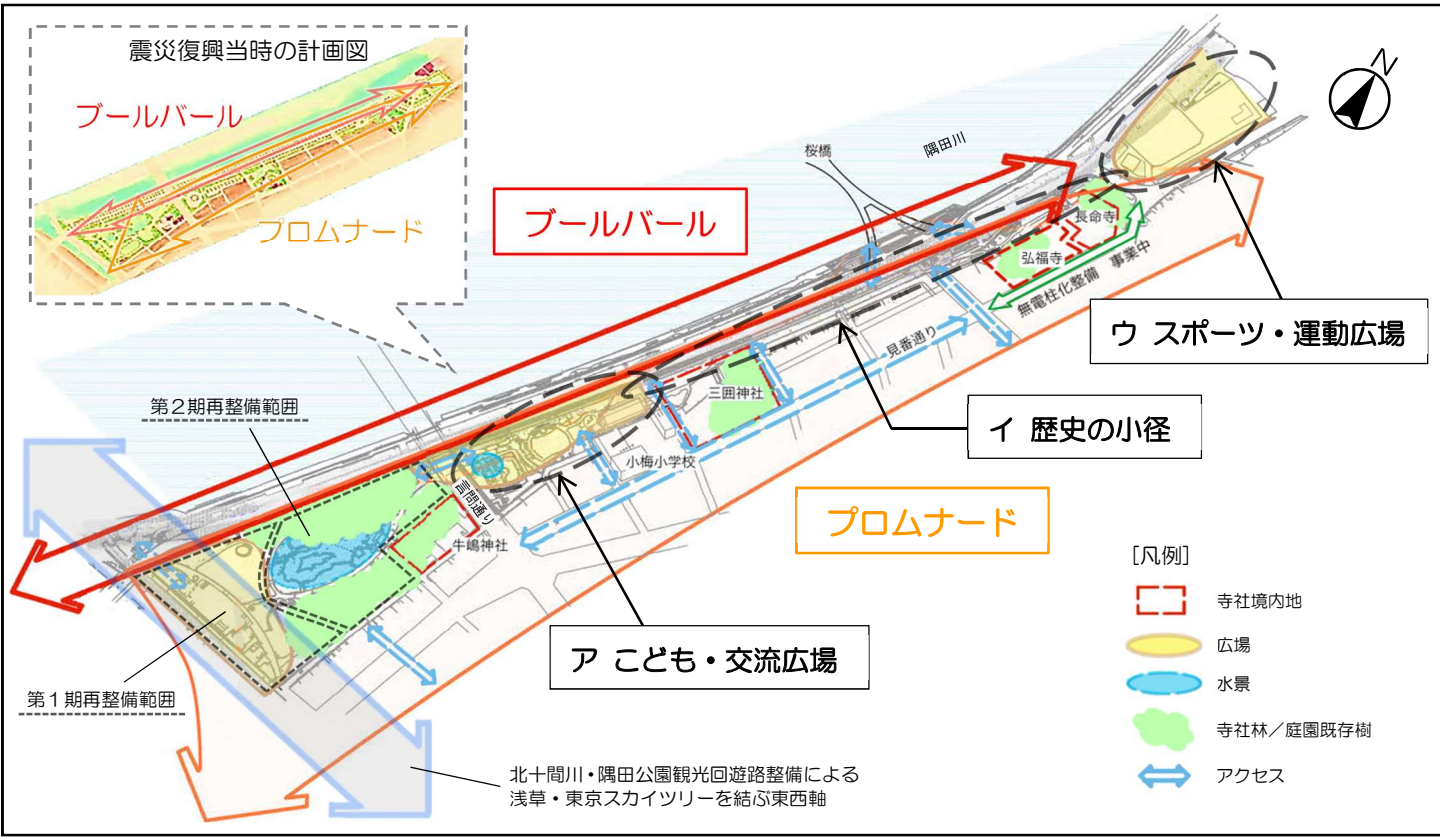
隅田公園の第1期・第2期再整備による浅草・東京スカイツリー間の人の流れや賑わいを、今後の隅田公園の再整備により魅力的な南北動線を創出することで、言問通り以北へ波及させる。さらに、隅田公園を核として地域への回遊を促し、まちの魅力を向上するため、隅田公園の再整備構想を策定し、今後の再整備の方向性を確定する。

3 再整備構想の概要（案）

第3期以降（言問通り以北）の再整備については、隅田公園の持つ歴史的な空間構成を継承しつつ、現在の区民ニーズや社会情勢の変化に対応する。

【再整備構想コンセプト】

隅田川沿いの並木のある広い道路「ブルバール」の継承と
公園とまちの一体的な空間「プロムナード」の創出

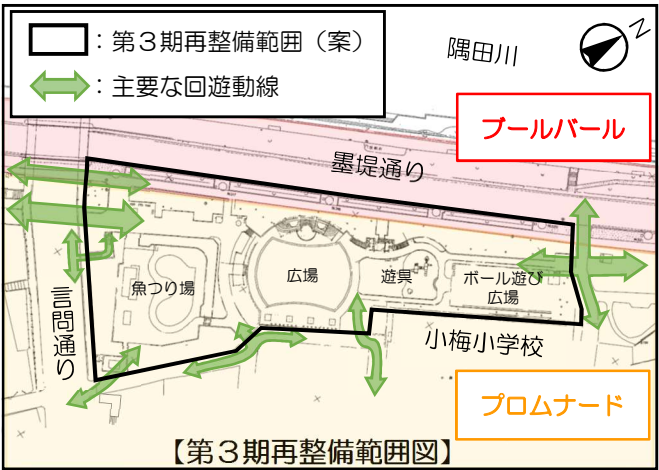


4 第3期再整備の方向性

第1期・第2期再整備による人の流れや賑わいを言問通り以北へ波及させるものとする。

再整備構想（案）を基に、「ブルバール」では首都高高架下を活用するとともに、「プロムナード：こども・交流広場」では公園とまちとの一体的な整備により、右図のとおり人の回遊を創出し、子どもを核として多世代の交流を図ることができるエリアとすることで、多くの人が訪れる賑わいのある公園にする。

第3期再整備範囲は、右図のとおり言問通りから小梅小学校前までの範囲とする。



2 アンケート結果（別紙参照）

方法及び期間：WEB調査 令和6年8月28日（水）～令和6年9月30日（月）

現地調査 令和6年9月19日（木）及び令和6年9月22日（日）

回答数：983件（WEB調査回答数739件（小梅小学校児童332件を含む。）、現地調査回答数244件）

【各ゾーンの課題と解決策の方向性】

■「ブルバール」（震災復興当時の並木のある広い道路）の継承

- ・墨堤の桜が、樹齢約60年に近づき、老齢期を迎えている。
- ・首都高高架下の立地特性（全天候型）を活かせていない。

- ・墨堤の桜を継承していくための長寿命化と計画的な更新
- ・首都高高架下の全天候型公園としての活用



震災復興当時の写真（昭和6年）

■「プロムナード」（公園とまちの一体的な空間）の創出

ア 「こども・交流広場」

- ・言問通りを境に、第1期・第2期再整備範囲と言問通り以北が南北に分断されている。
- ・公園施設の老朽化が進んでいる。また、魚つり場の利用者数が減少している。

- ・第1期・第2期再整備範囲と公園北側範囲との結節点とした、人を誘導する機能強化
- ・子ども向けの施設を中心とした、安全で快適な空間整備

イ 「歴史の小径」

- ・公園と周辺道路との高低差があり、細長い敷地形状であるため、利用しにくく魅力に欠ける。
- ・園路と植栽地しかなく、全体的に薄暗い雰囲気になっている。

- ・周辺のまちにおける歴史や文化が感じられる空間整備
- ・園路の拡幅などによる開放的な空間整備及び回遊性強化

ウ 「スポーツ・運動広場」

- ・細長い敷地が多い公園北側において、まとまった敷地があるが、その敷地条件を活かしきれていない。
- ・日本で最初の少年野球場という歴史的価値がありながら、老朽化が進んでいる。

- ・スポーツ・運動施設の集約などによる、公園北側への回遊の目的地となるような空間整備
- ・少年野球場の歴史的価値の保全と利活用

【主な再整備のポイントと理由】

- ・子ども向け施設を中心とした、多世代が交流できる憩いの空間への再整備
- ・魚つり機能を大横川親水公園に集約した、子どもが楽しめる水施設や来園者が交流できる広場への再整備

・アンケート結果から、第3期再整備範囲にどのような空間を求めるかの回答において、「子どもが遊べる空間」（約40%）、「飲食ができる空間」（約16%）、「誰もがくつろげる空間」（約15%）への需要が高いことがわかる。

・「魚つり場」は、昭和52年に設置した子どもを対象とした公園施設だが、アンケート結果において「魚つり」を目的に訪れるという回答が約1%である。加えて、利用者数が減少傾向にあり、老朽化が進んでいる。（1日平均利用者数 令和3年度：約17人、令和4年度：約15人、令和5年度：約9人）